

校章の由来、その思い

校章は、その学校を象徴するためにデザインされた紋章のことです。その学校への所属を表し他校との識別のための意匠として、正門や正面玄関に取り付けられるほか、校旗、徽章、生徒手帳、学生証、学校発行の賞状、卒業証書その他に用いられています。

日本の学校で使用されている校章は、大抵は学校の由緒や校訓校是、周囲の環境や気候風土を織り込んだ意匠、校名の文字などを図案化したものが多いようです。



各校ホームページより

ま な び や

福井県立 武生高等学校



府中の城主本多富正の紋所「立葵」を図案化したもので、

四方に伸び行く曲線は、坂井平野の稲穂とともに自由に舞う蝶を表し、坂井平野から未来に向かって羽ばたくそれぞれの学科の成長をイメージしています。上下に伸びる形はドリル・杭、ペン先、針などを表して、蜂のように目標に向かって突き進む坂井高校の未来をイメージしています。また、全体の形の中には統合前の各校の頭文字H、S、K、Mが存在しています。

福井県立 坂井高等学校



校章を形どっているのは福井の「井」で、その中央に、明倫の「倫」を配しています。人としての「倫」を学び、郷土「福井」を愛し将来の福井を担っていく若者に育って欲しいという願いを表しています。

福井市 明倫中学校



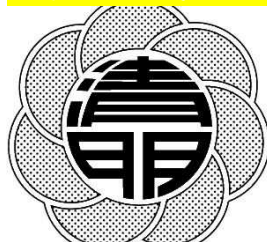
校章は市の北部に位置したことから、北極星を中学校の字形に図案化。十の形から平和博愛を、北極星は不変の真理を表しています。

福井市 明道中学校



昭和23年に完成しました。「葵」は新井白石の著書「東雅」によると、「アフヒ（葵）とは日を仰ぐをいふ」とあり、「理想は常に高く希望は太陽の如く」を意味しています。

福井市 清明小学校



雪輪を台にして、二つの波頭がミナト敦賀を象徴しています。蛍雪と港、敦賀を代表する中学校の意気込みと願いが込められています。

敦賀市立 気比中学校



松陵の象徴「松」の葉を、西浦・杳見・旧市街の三方面の校下ががっちり組んだ力強さを示して三本組み合わせ、その中に中学校の「中」の字を配し、「松」は平和・永久不変の操を意味しています。

敦賀市立 松陵中学校



敦賀市立 栗野南小学校



二つの「ミ」の組み合わせは、野坂山をはじめ周囲の自然環境と、白亜三層の校舎を形象化。6本の焰型は、学校目標実現への学校一丸の姿。

自然豊かな本郷地区から見渡せる空、山、川、大地と稲穂を図案化し、家庭、学校、地域全体が子どもたちを支える姿を表しています。

福井市 本郷小学校



周囲に七つの星を勧請し、この各星に大島、江端、下荒井、引目、中荒井、杉谷、今市の七町をなぞらえている。中央の鏡の中に「清明」を配し、日々我が身を反省し、天の恵みと地域住民の団結と協力の中で、長寿息災、校運発展を願う姿を表しています。